

特集 水産養殖研究の最前線—持続可能な養殖業を目指して—

日本の養殖産業の現状とこれから
—クロマグロの養殖とは?—

マルハニチロ株式会社 執行役員 増養殖事業部 部長
伊藤 暁

日本の養殖魚生産現状

国内の魚の養殖は、ここ数年ほぼ 250 千トンで横ばいに推移している。2000 年代に入りクロマグロの養殖は急増したが、資源管理上の問題から、現在は厳しい生産制限が設けられている。また、ブリ、カンパチおよびマダイについては、養殖の生産目標数量を定めて、価格の暴落を防ぐと共に、安定した需給バランスが保たれている。一方で、国内の鮭鱒養殖については、ご当地サーモンブームに則り生産は急増中で、現在、100 以上のブランドで販売されている(図 1)。

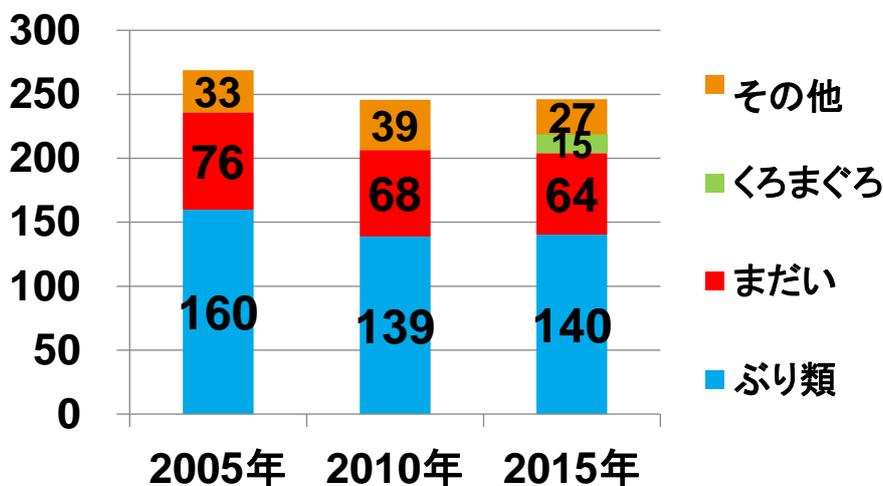


図 1 国内養殖魚生産量推移 (単位: 千トン)

一方で、ノルウェーを始めとした海外での鮭鱒の養殖生産量は国家的な戦略の下、飛躍的に伸び、ノルウェーで 1,300 千トン、チリで 800 千トンに達し、全世界では 2,700 千トンとわが国の海水魚養殖の 10 倍以上の生産規模に達している(図 2)。また、戦略的な輸出版売が行われている。わが国への輸入量も 20 万トン前後で安定し、国内の海水魚養殖量 250 千トンの約 80%に匹敵するまでに至っている。

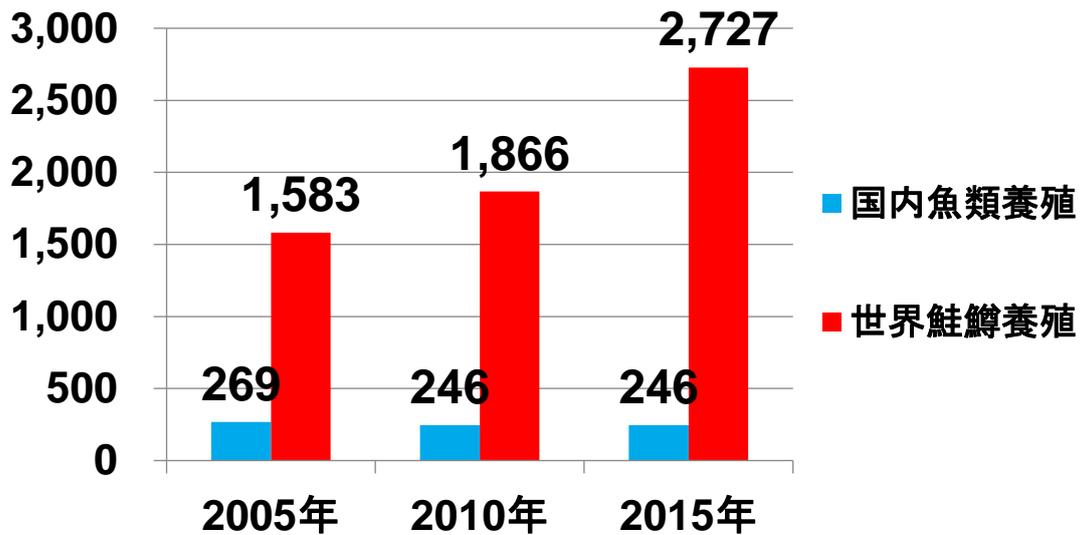


図 2 世界の鮭鱒生産量と日本の生産量の推移比較 (単位：千トン)

2017年に弊社が実施した好きな寿司ネタに関する市場調査では、サーモンは女性を中心に高い評価を得て、次いでマグロ、ブリ(ハマチ)の順となっており、いかにサーモンの人気が高いかが伺われる(図3)。

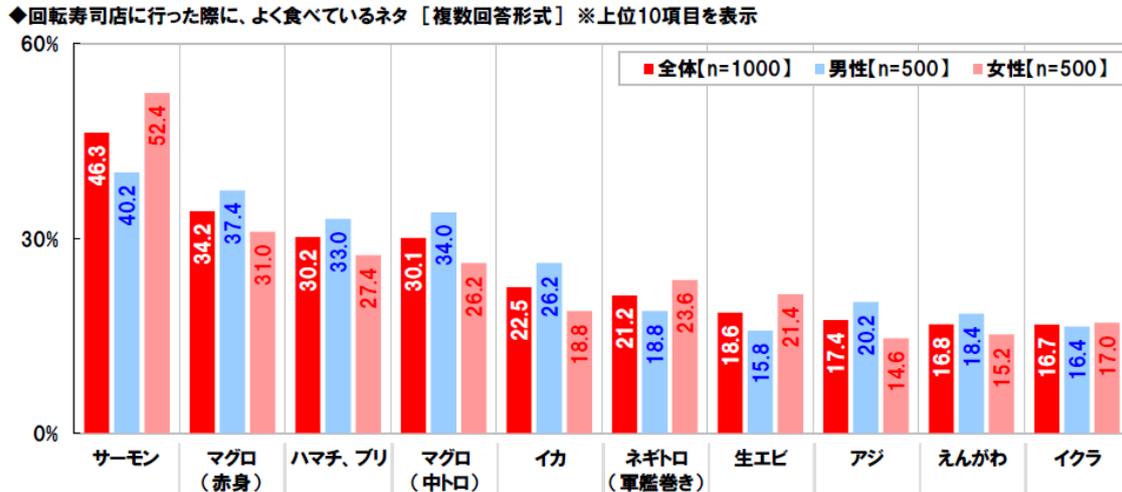


図 3 回転すしでよく食べるネタアンケート結果 (2017、マルハニチロ調査)

近年、魚離れが深刻であるとの様相であるが、内外の養殖サーモンの伸長を見る限り、まだまだ国内養殖魚の出番はあるものと考えている。国内では天然魚至上主義が残るものの、養殖魚は供給、価格、品質共に安定していることが武器である。

弊社では現在、クロマグロ、ブリおよびカンパチの養殖を行っており、グループ会社を含めると、クロマグロとカンパチは国内 No. 1 の生産規模であるとともに、特においしい魚を生産することに拘っている。

もちろん今後は、国内だけではなく、アジア、欧米への輸出も目論み、輸出に必要な色々な認証の取得を進めている。

弊社の養殖事業の詳細につきましては、「よかとと」サイトをご覧ください。

URL: <https://www.maruha-nichiro.co.jp/yokatoto/>

MARUHA NICHIRO
魚といのちの未来をつくる

トップ 「よかとと」とは? まぐろ ぶり かんぱち かんぱち・ぶりの加工 養殖場ご紹介

マルハニチロが育む増養殖業ブランド
よかとと

日本の食卓に欠かせない魚、クロマグロ・ブリ・カンパチ。これらの魚を育てる増養殖事業は、安定して高い品質の魚をみなさまにお届けするのに欠かせないものであり、マルハニチロが力を入れている分野のひとつです。

KURO MAGURO Click!
KANPACHI Click!
BURI Click!

よかとととは?
よか (良い) とと (魚)
マルハニチロが安全で美味しい水産資源としての養殖魚供給のための事業として位置付ける、増養殖業ブランド。それが「よかとと」です。
詳細はこちらへ →

漁場紹介
アフリカ・東アフリカ
アジア・東南アジア
オセアニア
北アメリカ
南アメリカ
ヨーロッパ
中東
マルハニチロ
グループ

料理教室

→ご利用にあたって →個人情報保護方針 →ソーシャルメディアポリシー Copyright (C) 2017 Maruha Nichiro Corporation